

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	微分積分(Calculus)		授業コード	J010101
担当教員名	島元 世秀		科目ナンバリングコード	
配当学年	一年	開講期	前期	
必修・選択区分	必修	単位数	2単位	
履修上の注意または履修条件	必修科目なので必ず履修してください。			
受講心得	授業には遅れないように、毎回必ず出席してください。			
教科書	カラーテキスト 微分積分 杉山忠男、二宮正夫 講談社			
参考文献及び指定図書	入門微分積分学 (東京教学社) 著者 松本好史他 著			
関連科目	基礎学力講座(数学)			

授業の目的	前半では、微分分野を学習します。今まで学んだいろいろな関数、すなわち整関数、分数関数、無理関数などの導関数と、これらを組み合わせることができる関数の導関数を求めます。後半では、積分について学習します。
授業の概要	微分積分は、各種問題に適用できるように進めていきます。適宜小テストを行い、成績の評価を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：フレッシュマンスタートアップセミナー</b>	復習
<b>第2週：関数の極限と微分係数</b> 微分係数の定義を理解するため、関数の極限を学習し、その後「微分係数」を定義します。 簡単な関数の微分係数を求めてみます。	予習・復習
<b>第3週：微分係数と導関数</b> 微分係数の図形的な意味を理解し、その利用法として接線の方程式を求めてみます。さらに導関数を定義します。微分係数を求めるには導関数を求めておくことが有利だということを知り、簡単な関数の導関数を求めてそれを利用して微分係数を求めてみます。	予習・復習
<b>第4週：整関数の微分</b> 整関数の微分ができるようになったところで、その利用について考えてみます。具体的には速度、接線の方程式、関数の増減と極大極小について学習します。	予習・復習
<b>第5週：微分法の公式1</b> 積の微分、商の微分法を勉強します。	予習・復習
<b>第6週：分数関数の微分</b> 分数関数の微分の計算について学びます。	予習・復習
<b>第7週：微分法の公式2</b>	

合成関数の微分、逆関数の微分法を勉強します。		予習・復習
<b>第8週：無理関数の微分法</b> 無理関数の微分の計算について学びます。		予習・復習
<b>第9週：定積分と不定積分</b> 積分の原理(定積分)について理解し、簡単な関数の積分を行います。		予習・復習
<b>第10週：面積の計算</b>  定積分と不定積分を用いて面積の計算をします。		予習・復習
<b>第11週：置換積分</b> 置換積分に関する公式を導き、幾つかの関数について適用します。		予習・復習
<b>第12週：部分積分</b>  部分積分に関する公式を導き、幾つかの関数について適用します。		予習・復習
<b>第13週：置換積分・部分積分の定積分</b> 置換積分・部分積分を用いて面積の計算をします。		予習・復習
<b>第14週：偏導関数</b> 多変数関数の微分である偏導関数について理解して、幾つかの関数について適用します。		予習・復習
<b>第15週：重積分</b> 置多変数関数の定積分である重積分について理解して、幾つかの関数について適用します。		予習・復習
<b>第16週：期末試験</b>		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目		
備考	「講義形式」は演習を含みます。また座席を指定します。	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	やむを得ない場合を除いて遅刻欠席をしないこと。
<b>【知識・理解】</b>	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	

<b>【思考・判断・創造】</b>	考え抜く力
-------------------	-------

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		<b>15点</b>	<b>15点</b>	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	<b>60点</b>			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	<b>10点</b>			

**(「人間力」について)**

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会

**○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安**

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	小テストを適宜行います。
発表・その他 (無形成果)	出席状況を考慮します。